

昭和25年

一月三日(火)

正月年始三日の中とばかり親戚を駆け回る。

一月四日(水)

中林帰省。メツチェン来てダンス。

一月五日(木)

三角君達、北大山岳部日高の峻峰カムイ 山、19 米無名峰に登山するとの事。各新聞社、放送局の後援を得て大々的に報道陣の御厄介になったらしい。ラジオ(携帯用)では天気状況の綿密な注意の下に行うということだ。きっと成功するだろう。

一月六日(金)

相馬今日から五日間アルバイト。中林君帰舎。

一月七日(土)

上野さん正月返上で学校で研究。

一月八日(日)

毎日朝早く、晩遅くの研究には全く感心した。

一月九日(月)

新聞でもラジオでもしきりに北大山岳部の壮挙を期待している。天気が良くて予定より早く目的を達成したので物凄くエッセンが余ったとは後日の話。三角君が帰る前に日誌に載るんだから変な話だ。

一月十日(火)

確か今日だろう。アベ川餅をしたのは。

一月十一日(水)

折田君帰舎。

一月十二日(木)

間もなく新大が始まる。今年は先ず新大生の顔が先に揃うらしい。

一月十三日(金)

餅がなくなった無念一日、二日がしばれる。

一月十四日(土)

山本、村瀬、黒島の諸君帰舎。上野さん漸く帰省。

一月十五日(日)

辻、山崎の二君帰舎。感心に遅れずにこれで全部揃った訳だ。

一月十六日(月)

新大、予科授業始め、尤も授業はなかったらしい。勿論始業式なんかなかったんだろう。

一月十七日(火)

予科チン学部進学が決定し胸をなで下ろしたと思ったら途端例年に似て学校には用がなくなってしまう。何とは責められぬ。我が身にも憶えがある。

一月十九日（木）

上野さん帰舎。

一月二十日（金）

平さん相変わらず良い顔色で帰舎。三角、山野先生帰舎。土産あり集まれ！

一月二十一日（土）

中林君帰舎。マージャンはやりたし涙をのんで帰省といった所。すぐにとんで帰る相だ。

一月二十二日（日）

朝角田さん帰舎。それに中林君帰舎で益々マージャン盛んになるどう。晩大類君帰舎。

一月二十三日（月）

中田帰舎予科チンの中顔を見せているのは彼一人。もっともアルバイトで矢張り学校には行かない組。

一月二十四日（火）

昨日から工学部始まり。始まりの常としてあまり授業はなさ相。

一月二十五日（水）

角田さんマージャンの点取表を作る。小母さんが1時頃まで起きるのはマージャンでもやらない限りそうざらにあるもんでない。

一月二十七日（金）

村上さん見えられる。礼文島の話しきり。一年に五万円くれる相だ。

一月二十九日（日）

平さん帰省。

一月三十日（月）

福島氏顔を見せる。平さん帰舎。

一月三十一日（火）

福重氏御来舎。テンブラのご馳走。小母さんの部屋びっしり。

二月一日

食堂の一隅。エッセンボックスの上に沢山のレコードと共に塵芥にまみれて徘徊して毎日を活かしていた？浪子ならぬ我舎の日記を拾って見る。今日はすでに二月である。無慈悲な舎生諸君と雖も仏心あらば救ってやりたい気持は湧き相である。一枚一枚読んでいくと仲々の愛着を覚えるものである。ある意味では舎の記録である。

単に個人個人の出入りのみを書くことのみが日記たる所以ではな相だ。万一それならばこんな良質のノートブックを用いることは舎費の騰起を伴う。もっと深いところに日記をつける所以のものが存在している様だ。ある人は日記をつけないと言っているがその人その人の考え方もあろうから強制はしない。少なくとも几帳面に毎日の心境、反省を書いている人があることは世の中には沢山いる。少して舎の生活を後世に残す資料は芳しからぬ日

記のみである。百年祭をやるときに記録すべきことを見出さんするもおそらく日記であろう。

S君が過去一ヶ月余のブランクを埋めてくれた。こんな他人任せの日記なら日記係でも作ってその人に凡そ任せたがよい。各人回覧する所以は各人の考え方？意義があると思う。

最近の舎生活は何か空中にういた様な感をうけるのは私一人であろうか。現状ならば青年自治とは云えまい。自治生活の本質考える迄もなく若き世代に生きる若者の意気をもっともっと出すべきではないだろうか、旅人の旅に疲れて切った現実を思わせる空気が舎生の諸君に見受けられる。勿論私自身を含めて。

日記をかりて舎の内政を攻撃批判するとは適当でないかも知れないが舎の現実を一人の舎生が感じた儘を書き連ねることを許されてよいことと思うが：：。或は嫌な空気を誇張していると云うなら堂々と論戦を日記上で交えるべきだ。それが日記の各個人に回覧する少なくとも目的の小部分を占めると私は主張したい。

陽気のため舎生一般がうかれているのかもしれない。若し異なった見方とせば許して頂きたい。私は或は極めて消極的な形であるが、最近の舎内政について箇条的に反省を求め不足の分に対しては正面から攻撃する。言葉が強すぎるかもしれない。

一 舎の財産物例えば書籍、レコード e t c、など少ない財産を協力して長く後輩に伝える義務と責任があると思う。卒業記念に買った買ったレコードを若し所定の場所以外のあるまじきところに在るとしたら皆さんが舎を訪問した際どう思われますか。責任者各位の一層の監督を希望します。

二 清潔にしたいと思う。

団体生活では大変不潔になり勝ちですが生活に馴れると不潔を不潔と思わぬと云ったそんな習慣は是正した方がいいでしょう。舎生諸君は少なくとも三日に一度位箒をもって各自の部屋を掃除して頂きたいと思う。これに関連した副舎長は置は常識では考えられぬ程傷んでいることは舎長に相談し直ちに解決を必要とすると思う。新舎建築を待は勿論希むところであるが現在の社会情勢では百年大河を待つに等しいと思う。現在の環境を少しでも美化したいと思う。

三 責任当事者の事務的処理を厳正にせられたい。これはつけ加えることなく当事者間の反省を望む。

以上の三点について私の意見を述べさせてもらいました。五十年誌の発刊により過去の学生生活を少しでも回想したいと思います。

過去の順風の生活を望み且つ欲する人生の常であるがこれにもまして人生は現在以降の将来にありという古諺があるが今日より明日の生活をよりよくするために舎生諸兄の奮起を望みます。

50年誌にもられたあのインスピレーションを十分に感ずるならば私は現在に満足出来ない。小説家が貧民窟の生活をして大成したということを知ったことがある。しかしそれはセンスが異なると思う。

新しい時代のインテリ候補者として舎生活も新しい局面から反省されねばならない。

二月二日

朝から相当に寒かった。別に変わったことなし。今日パンを取りに行ったから多分明朝はパン食でしょう。

二月三日(金)

何処からとなくその姿をあらわした日記を

前にしてA・H氏の忠告に一つ一つうなずきながら、さて何を書こうかと思案する時：：何ら名句は生まれて来ない。

A・H氏の忠言自身へその儘当てはまるので何ら云う事はない。レコードの事も。怠慢の為：：とにかく気をつけましょう。将来素晴らしい寄宿舍が立つ。後に来る人の為又自分たちの為に喜ばしい事であろう。なるほど美しい希望ではあるが又はなはだ頼りないものである。それよりもよりよき現在をつくりたい。A・H氏の言われる様にタタミでも入りたい。帰ってきたと思ったら学校ではもう試験の話。ゆううつ。

二月三日節分 しかし豆まきはなし。泥棒者は外！

二月四日(土)曇

° そりのね° の原稿が出揃わないらしい。各人色々の主義主張がおわりの事と思うが、このことももう少し考える必要があるかもしれないと私は思う。成る程消耗かもしれない。しかし 朝毎に繰り返さねばならぬのは強行軍である と云われる。何故に何を目指して歩き続けねばならないだろうか そう書きかけた時S先生が原稿用紙を持って御来室。イヤハヤ。別に御先棒をかついだ為ではありませんから。小母さんの部屋は遂に食堂兼娯楽室に変わりそうだ。今夜も外はかなり暖かい。土曜の夜の気分もよく出ている。

二月五日(日)曇

中川さん帰還サル。三角さん山から未だ帰られないが何処の山にてすごしておられるやら。

いろんな個性の集団である寄宿舍の生活、各人の配慮と愛情とが欠ける時思わぬ感情の渦がおきてくる。そして、互いに純であっても感情の食い違いが起こることもあるが、それは却って互いの素朴さの故である。

冬は未だ容易に去らぬだろう。けれども春はもはや近い。そして青葉の茂る頃は直ぐに来る。どうか、舎生一同が健康でよろこびにあふれつつその生命を完成し創造して行くことの出来るように。

二月六日

本日は北海道大学開学記念日で全学休日。

二月七日

だんだん春が来つつ有るようです。冬来たりなば春遠からじという言葉の通り大寒をすんで立春に入っています。長谷川末工学士の尽力によってわが舎の蓄音機も平常状態にかえりこれからは春の光をあびて美しいメロディーが流れることもあるでしょう。中川先生

はスキー靴が欲しいそうでお金を一線も持たず靴屋を駆け回る状態です。

工学部の諸氏は試験迫れるため一生懸命勉強しています。

二月八日 水曜日 曇天 月次会 18時より 本橋君司会 逢坂先輩来

黒島君 ` 遺伝ニ貢献セル独乙人ニツイテ`

泉田サン ` 因果率`

山崎君 ` 英語ニツイテ`

二月九日 木曜日 晴後曇

平々凡々なる一日也。特筆すべき事なし。

二月十日 金曜日 晴れたり曇ったり

人間は善より悪のほうが成しやすく出来ている。それに似て勉強より遊ぶほうがどれ程しやすいことかは言うまでもないが毎日するマージャンの熱をもって勉強したとすればそれこそ偉大なことが出来るかもしれない。

山本先生は昨日から一日一杯スキーのエッジつけに専心して、今や追い込みに入ったとこらしい。克己といい忍耐といい努力といい目的によって何とでもなるのかしら。

二月十一日

今朝は少し寒かったが日が照りだすと暖かかった。雪が降らないと到底スキーは出来そうにない。三角さんは明日奥手稲へいらしゃる様だ。大類産と長谷川さん達と春香山へ行く筈で会ったが、結果藻岩山に落ち着いた。

夕方はウドンで平さんが喜んでいらしゃいました。夜はいつもの通り常連がマージャンをやっていた。

二月十二日

日曜日である。朝より勉強の組もあり又食堂でダンスする組もあり色とりどり又スキーを背にして野外に行くもの、ホーキを縦横無尽に使いこなして一週間否二週間のゴミをはたき出す組いつも変わらぬ日曜の風景である。学生と休日とを結びつけて考えてみるのも又面白いのではないかと思う。特に学生と限るわけではないが現在の境遇が学生なる故に学生生活としたのである。恐らく学生には土曜の午後を待ちわびない人は居らぬだろう。小生等は土曜の三、四時間目が終ると急に何とも云われない軽快感を覚えるのである。明日は日曜なるが故にその様な気持になるので洗うが例えば日曜は何と云っても朝寝が出来る。だから土曜日の夜ほど所謂のんびりと一夜を味あう事の出来る日は外にないだろう。この所謂のんびりすると云う事が日曜日の日曜足る所以であってこれが人生と密接せられるのであろうか。今日は日曜日なので窓より子供たちの遊ぶのを見ながら日曜はいいなと思いつき急に日曜の存在に気付いた次第です。

昨夜松山君帰舎。予科生二名。外の三名は何をしている事やら。

二月十三日 月曜日

朝は一寸した吹雪だった。面を向けられぬ程激しく吹きつける細かい粉雪。農学部の塔が風に凄まじく鳴る。昨日(日曜日)に引きかえ今日の身の上つくづくはかなんでいる人

もあるであろう。一方新雪に快調とスキーに行った人もある。

晩の八時に帰舎。相変わらず小母さんの所であつもっている人。どうやら今日一日別段の事も起こらなかったようです。

二月十四日 火曜日

春から冬に一度に逆戻りした感あり。一日寒し。

二月十五日 水曜日

雪が降る。まだ寒い。湯たんぽを買いにいく者は誰だろう。

今日はジャンの音が消えぬ。 「ジャンは阿片である。」考えてみよう。

二月一六日 木曜日

小生此の数日八時前に舎を出て、帰るのが十時近く。舎の様子がトント判らない。

二月十七日 金曜日

中田、大類の両君それに泉田、山本の二君も加え手、米国放出の中古衣料品を買いに値が安いと早々に出掛けたが何れも送れてすごすごと帰って来る。

二月十八日 土曜日

中田、大類昨日に懲りて、六時より早々に出掛け中古で本望を達してきた。オーバー 4000 円のを夫々買って帰り得意満面。中仲よい品だそう。

坂井はじめ家にいたたまれず、舎生諸氏の顔をみに室蘭よりはるばると出て来た。明日帰るそうで、歓迎のジャン大会をやっていた。最後に、彼 4500 も浮いて面目をほどこしていた。

二月十九日

年中行事の一つたるスキー、年にたった一度のスキーようやく本日決行した。気温も低く、昨日は五寸程の新雪。空は青くはれて全く快調なコンディション。行きはさっそうと出掛けたが、帰りは足がいたくてびっこを引きながら帰舎。

学校では卒業生送別パーティーあり、泉田君有権者の一人として出席。

二月二十日 月曜日

桧山君の友人今日より二、三日借宿。外異常なし。

二月二二日 水 晴

午後六時より来年度の役員選挙があり、次の諸氏が当選する。

副会長 土木二年 内田和夫氏

会 計 新大一年 柄内忠明氏

エッセン 機械一年 長谷川晃氏(再選)

文 化 農経一年 武田邦夫氏

アルバイト 新大一年 黒島重郎氏

燃 料 化学一年 大類徹也氏

備 品 新大一年 山崎豊氏

つづいて部屋替えが希望、抽籤で決められた。

一号室	宝示戸	山本
二号室	三角	折内
三号室	坂井	小原
四号室	本橋	新入生
五号室	中田	長谷川
六号室	吉田	松山
七号室	平	
八号室	武田	村瀬
九号室	山崎	中川
十号室	相馬	上野
十一号室	中林	黒島
十二号室	大類	辻

選挙が終わってから舎の修理について議論し二、三日中に代表者数名が奥田舎長宅へ窮状陳情しに行くことを決定した。

二月二十三日 木

今日は朝から少し寒い。舎のお嬢さんゲンチャンスロープへ。試験がなければ飛んで行くのだがなあ。やはり試験が近づくと皆一生懸命勉強をする。試験のない人は相変わらずジャン。

二月二十四日 金

河村さん来舎。予科最後の試験を受ける為にガンバレ。

二月二十五日 土

予科最後の試験行われる。

五時半より泉田さんの送別会極めて和やかに。大先輩の名残尽きない回顧談。在舎生の礼賛しきり。終わってから送別マージャン大会。

二月二十六日

ポカポカの暖かい今日外に出れず猛烈な追跡を机上でなさっている。学生諸兄の姿は尊くもあるが、学生なればこそその苦勞があるのだ。だが相変わらずジャンの音は消え相もない。人生街道多岐色々と変化あって然るべきであろう。久し振りに旧副舎長さんのところにメツチェン御来舎。睦まし相な後姿。最後の一ヶ月。幌都の思い出にその方面の学問も理学部の学問と両立させて頑張ってください。出来れば：：。

二月二十七日 晴

平々凡々な一日。

三月一日 晴

本日より農学部、新大の諸兄の試験始まる。

三月五日

一日中ビュービュー吹雪だった。前の堂前さんで近い内に結婚式がある。舎の中でも「うらやましい」人もある事と思います。

三月六日

本日より工学部の試験が始まりました。T氏は出鼻をくじかれたと大変落胆なされていきました。夕食はオスシ。中々良い味。ジャン倶楽部の会費を集めて、中林さんの希望通り長く貸していただくつもりの様です。

三月七日

今日は暖かい南風が激しく吹いて来る、雨も降ったりして春近しを思わせる。何人もが春を待ちあぐんで居るが一度び社会情勢に視野を拡げて見れば正に複雑、困難な時期なる事をまざまざと痛感せざるには居られない。先日大蔵大臣の失言問題で活気を呈した議会には院内労働攻政、中小企業界に押寄せて来るデフレ傾向。電力十分割。西と東との対立二兎もないドイツ問題。インドネシア等を含む東南アジア問題等々の諸問題が先ず考えの中に浮んで来る。

三月八日

昨日に引き続き猛烈に暖かい雪解けの札幌の街はまことに見る影も無いもの。雪よ触れ触れさもなくば忽ちにして春になってもらいたい。中田君今晚入院。試験のあった人、最中の人、悲喜交々。

三月九日(木)

本日中田の所へ様子を見に行ってきた。

新大の連中昨日で試験が終わり、さて待望のジャンを心ゆくまで楽しもうと思っていた所昨夕突然持ってゆかれた相で、中林君はじめ面々悲嘆すること甚だしく、夕飯ものどへ通らぬ御仁がおった由。さてもさても。

今日一日手持ちぶさたに彼等一行何をして過ごしたことやら見える様。

三月十日(金)

泉田君面々の余りの消耗ぶりに気の毒になってか、朝早く中林君を伴ってジャンを借りにゆく。間もなく踵を振って帰り、中林君生き返った様な顔で。後のことは：：：。ただし、12時近くまでに返へさなければならぬとは。諸兄よあわれみを与え給え。

三月十一日(土)

室蘭のメツチェンの所へ昨日泉田君先行。今晚あたり大いに賑やかなことであろうと想像される。

新制大学の入試本日より開始。舎に泊まっているのは三名。朝早くよりそろって出掛けた。皆一中で受験の由。今日の結果は消耗している顔、黙して語らない顔、功をほこる顔色々であった。発表は二十五日だそうでそれまでの気持諸君経験おありでしょうね。

三月十二日(日曜日)晴天

日曜というのに受験の人達は朝早くから御苦労な事です。試験組は工学部だけとなった。



悲愴である。泉田さんが室蘭から帰る。早速ヒゲをそって居たと思ったら案の定？終日ピンポンの音が絶えなかった。夕方中林君会津寮に出掛けて行ったが断られ、明日帰る予定を一日延ばすとは御苦労様の事。

三月十三日（月曜日）

今日は早速借りて来てやっている。村瀬君帰省。辻帰省。折内帰舎。

三月十四日（火）

山本帰省。

三月十五日（水）

村瀬、長谷川、武田、中川。

三月一六日（木）

黒島、山崎帰省。工学部も試験全部終了。三月十七日（金）

中田君の所に行って来た。中仲元気であった。夜宮部さんの所に行く。

三月十八日（土）

中林君帰舎。早速と例のものやっている。

四月一日 曇時々晴

今日は昭和二十五年学校年度の第一日目、第一学期が始まって又一年間、貴重な人生の最も貴重と思われる一年間をどう過ごすべきか、じっと考えに沈むと種々の思念が次々と通り過ぎる。＂勉強そのものが目的全部だ少なくとも今年一年間は即ちよく言われる通り学生時代は勉強すればよいのだ＂と、しかし誰しも今年一年間の中に思いを閉じ込めているものはあるまい。常にその先は将来につながる。経済的独立、社会に対する貢献（人間の完成）そのために勉強することが大切なのだとは言わなくても分る。そう言った意味で先の言葉の補注を付さなければならぬ。将来活用すべき技術と智識が必要なのだ。生活をより良くするための技能を習得すること。それが勉強である。少なくとも現在の我々の学校での勉強は正しくそのものである。

将来なくして唯＂勉強＂の言葉をもて遊んでも何の意味がない。最早我々は＂勉強＂の言葉を前述の補注の意味で使うより仕方のない段階に来ている。まさに我々の＂勉強＂は職業補導である。勉強することがひたすら大切であるという抽象的な意味は薄れている。＂よく勉強しろ＂と言う言葉がかって使われた意味即ち＂そうすればお前は立派な学生だ＂という概念は分離している。私は学校の勉強を見つめると次のことしか答えられないことを知る。＂よく勉強しろ、そうすればお前は人生に於いて成功する重要な技術を身に体得することになるだろう＂と、それでは＂立派な＂ということは何処に行ったか。それは各自が探さなければならない。それは他人の事をとやかく批評することの出来ないもので各自各様のものだろう。それは我々が日々智識を積み重ねて行く傍ら探し求めて行くものだろう。

真新しい日記帳の冒頭（第一頁）は何か人に書かせたがる興味をひき起こす。例外なく私もそのために後で苦笑する羽目になる。四月一日はただ人事の異動、天候だけを書くには忍びなかった。その上、誰かが此の日記帳にこの様なことを続けるだろうと思ったからである。

学校が追々始まるから次第に人数がふえるだろうが工学部は工学部は三日から始まるから此の二、三日の中に顔を揃えることになる。現在のメンバーは次の通り、上野、宝示戸、大類、本橋、吉田、小原、折内、中林、相馬の諸氏。

ニシン曇りに気を良くする。

四月二日（日）晴

角田さん、中田君帰舎。道路の雪が眼に見えて融けて行く。日当たりの関係で前の電車路も寄宿舍側の雪が融けるのも一週間とは要しないだろう。

四月三日（月）晴

長谷川君帰舎工学部事業開始。教授に時間割が届いてないので一人も来ていない相だ。新入生の入学式が今日で、新しい角帽を充分気にしていながらさりげなく装う振りが一年前を思い出す。色々な感興があったものだがすっかり忘れてしまった。

四月四日（火）晴

道路が片端から乾いて主な舗装道路は白々と誇りっばい。しかしとても嬉しい感じがする。地肌を可成り拡張したので短靴をそろそろ引っぱり出して手入れしても良くなった。

四月五日（水）曇

南方魚場豊漁。ぐんぐん安くなるだろう。かつて物価のぐんぐん昇った暗い記憶のこびりついた心には衣料品の値段が下がる。品物が出回る。何でもある。そしてニシンのやすくなることも明るい印象を受ける。いかにも自分に金があつていくらでも買える様な錯覚に陥って苦笑する。

四月七日（金）

折角乾いたと思ったら麻予想外の寒さに外は真白な雪、二寸程もあろうか。気温が上がらぬため昼頃になっても融けなかった。さすがに人通りの多い所はぐちゃぐちゃになっていたが、穴のあいた靴で外を歩きながら大いにくさる。

四月八日（土）晴

平さん、武田君帰舎。医学部本日始まり、昨日の雪が昼頃には舗道に何の痕跡も残さぬ。

四月九日（日）晴

寄宿舍の黒猫「たま」が自分の子をむしゃむしゃ食ってしまった五匹中三匹しか居ないから二匹を殺したことになる。人間の道徳律をもって猫の行為を非難しても始まらないが嫌な感じがする。似かよった連想として美深の拓銀事件が心に浮ぶからである。親猫が単に鼠を捕食同じ様な味覚の上から自分の子を食べてしまったのとしたら畜生だなあと内心憤りを感じずが多分乳が出ないので一部を助けるために一部を犠牲にする種族保存の本能が働いたんだろうと有利に解釈してみる。（相馬）

四月十日（月）晴

今朝ジャンを持って来て呉れ他というのでユックリ朝飯の予定が八時に起こされてしまった。神様事中林君もがらがらの音を聞くや物凄い勢いで飛び起きてきた。久方振りなので神様大いに張り切るが相手が居なくて御気の毒。午後ピンポンをやる。好天で暖かく汗ばむほどであった。小原君外泊。特別室角田。

四月十一日（火）晴

本日も絶好の春日和りである。定めシタヌブラ人種が増えたことだろう。神様始めレギュラーメンバーは好天をよそに相変わらずジャラジャラやっている。松山君帰舎す。

四月十二日（水）

午前中武田さんが一生懸命書棚の整理に当たって居られた。

午後七時より集会あり。

四月十三日（木）晴

中林君帰舎。長い間借用出来なかったマージャンが二、三日持って来てから俄かに活気ついたものの神様が帰省して一頓挫。連日好天気選択に絶好の日和。皆フトンを乾かす時は充分泥棒に注意すること。小さいものがとられる危険が多い。丹前など。

四月十四日（金）晴

大陸からの高気圧が長い間停滞してここ又当分晴天がつづく模様。気温の上昇がニシンの群れを北方に追いやってしまったとのことだ。

四月十五日（土）晴

中林君帰舎。小原君外泊先から時々顔を見せる。最近皆体に気をつける（？）様になったか。寄宿舎の牛乳配達が多くなった。牛乳ビンがぞろっと並んでいる。朝六時半頃から今年第一回のアルバイト（畑お越し、舎外清掃）をした。

四月一六日（日）晴

朝から晴天に恵まれ散歩にもってこいの日だ。日曜だし、気持の良い日射につい浮かれ出す。しかも一面何だか眠気を催す春日和。子供が三人、多分姉妹だろう薄黄の上着にノースリーブで胸元の大きく開いたスカート風の真紅のワンピースのお揃いの服を着て手を繋いで歩いて行くのが春らしく羨ましかった。マージャンもついつい張り切ろうというもので現に今小母さんの部屋でポン、ロン、カーンとやっている。（相馬）

四月十七日（月）晴

早朝九時半友人に寝込みを襲われカーテンを開けると全く良い御天気だ。「煙草を買いに出たら余り良い御天気なのでフラフラと此処まで来た。」というのも又宜なるかなである。顔等洗っていると又々友人がやって来た。これは又鞆を下げ御丁寧に分当持参と来ている。「授業のないのを忘れて出て来た」という。まさに春である。午前中秋山、吉田両君の名トリオでピンポンをやっている。午後はジャン。夕方ともなれば裏でキャッチボール。中仲遊ぶのに忙しい。夜ともなれば猛勉強か？さすがに静かである。小原二、三日外泊の由。

本橋君の所に友達が数日泊まれる。特別室 角田

四月十八日（火）曇

前日の予想を裏切り珍しく曇だった、日中小雨がポツリポツリ。雪もとけて益々春らしくなるだろう。

四月十九日（水）曇

一日中曇で強い風が吹いていた。非常に寒く皆日にかぎりついてふるえ乍ら本を読んでいた。

四月二十日（木）晴

昨晚の寒さはこたえた。フトンの中の快い暖かさがひしひすと心に浮び堪えられなくなって床勉ということになった。今日も日射が弱く、四、五日前の薄着では震えが出て来る。昨日三角君帰舎。

四月二十一日（金）晴

タマ公の仔猫又しても一匹殺害さる。ご愁傷の事ならん。親猫の顔が急に憎らしく見えるから妙である。人の世にも同じ様なことがあるからだ。

トドマツ植樹再開。時正に緑の翼運動の始まらんとする日である。

小母さんの部屋では例によって例の如し。美恵ちゃんも小母さんの相手をして頑張ってる。孝行娘なるかな。

四月二十五日

久し振りで日記を書くのも懐しい。日記の冒頭に相馬君が云っている様に「勉強」という現在の定義には賛成しよう。勉強即職業補導の意味がその当否は論外としても切実な現実の要求であると思う。種々の傷害を突破され相馬君は述べられた様な結論を得たものと考えerがお互いに現実の意見を述べる事が日記をより味のあるものにすると思う。私は現実に直面してある問題についても他人任せの態度を止めて欲しいと思う。一例として先達問題を提起した学業の問題などもっと真剣に取り組むべきと思う。心の中では斯くある事を希いても誰かやってくれるであろう野態度は残念と思う。僕個人の判断では学業の問題をやって行く上に相当アルバイトがあることが予想されるのでありますがそれを拒否しているらしく見える。その現象面の一つとして委員諸兄の集いはなくてよいのでしょうか。

「生活が反動化し生活が苦しくなれば「赤」になる。」とある評論家が日本人の戦後労組を批判していたことがあるがそんな空気があると思う。それでよいのだろうか。僕達は少なくとも不労階級のカテゴリーに入る。エネルギーのはけ口を合理的なところに求めるのは果たして罪だろうか。「すねかじり」を出来るだけ多くする事が良いのだろうか。そんな愚問にはお笑ください。しかし現実は何如でしょう。 長谷川

四月二十三日 晴

薄曇りの春の日。植物園の日曜日は若き血の に賑わっている。舎内はいたってひっそり、村瀬、折内両君帰舎。

四月二十四日（月）晴後曇

新大二年は始業。ござを買う。赤布のツギに似たようなものだが、それでも何か部屋が新しく気持が好い。街に緑の羽の募金が盛ん。舎生にとってはいささか交通妨害。宮部先生九十歳の御祝いに角田、平両君出掛ける。三角さん宮部先生の畠手伝いに行く。五号K A、NA

四月二十五日（火）雨模様

晝前から小雨模様であった。それに風が加って冷え込みが強い。

学部の入学期日に夫々前後があり又新学期のこととて中仲舎生の出入りが多い。然し大半の顔ぶれは揃った様だ。

従って休暇間の静止状態が再び活発な動きを始めた舎生活は勿論吾々の心の状態もである。そののよしあしは兎も角以前の生活は心の状態が再び繰り返されたに過ぎないと云う嫌いはないだろうか。吾々の生活心の層は唯単に数学的な層であっていいものか。吾人はつくづく考える唯自分が生活のマンネリズムに入って居るから舎の生活もそう感ぜられるのかも知れない。とにかく小生自身は倦怠と焦燥の明け暮れである。

四月二十六日 曇風強し

午後六時舎生一同食堂に会合次項の事を論議す。

一、二十四年度部費決算の件

会計部提出の中真基薪代呑みの修正可決。

一、寄宿舎再興の件

副舎長提出。論議沸騰決定を見ざるも大体は学寮移管の腹として理事会に臨む様決心。

一、舎内春季野球大会の件

五月三日午前中に虚構に決定。

一、本年度分薪購入に就いて

燃料部に一括委任。

一、舎の負債に就いて

副舎長より説明あり了承す。

一、食糧部の食糧購入及び賄いより食糧を求めた後の処置に就き食糧部の説明あり了承す。以上八時十分終了会散す。

四月二十七日（木）曇後小雨。 狂人は雨に降られてキャンデなめ。

春眠を捨てるとばかり、もう街にはキャンデ（アイス）が出ている。それを買う人間がいるから話の筋が：：：？

「理性は殊に或る種の性格にあっては、感受性の侍女でしかない」グラルモン。気になる言葉だ。

四月二十八日（金）曇

昨日功哉が家へり、勝也が今日帰った。休日が続くから。僕は誰かが帰ると直ぐ次のような計算をする。（一日の食費）× 寄宿不在日数 <（家への往復の汽車賃）。此れが成

立して初めて帰る。そしてこてが僕の理性の最高の象徴であるかも知れない。安っぽさは個人の問題。

四月二十九日 土 薄晴

象徴生誕日。三面にかすかにその事を伝える新聞。神より人間への進化(?)は新聞の一面より三面へ移行させる。人間より動物への進化は姿人心獣。三越のゴム風船のあとを追う。一切がアプレゲールの春雨に濡れた交響曲の感傷に似ているのではないか。:::

四月三十日

昨日程ではないが今日もかなり良い天気、向かいの植物園には今日も沢山の人達が来ていたのが寄宿舎の食堂の窓から見えた。アベック組が多い様である。茲に二百倍位の望遠鏡が備えてあったらホモサピエンスの春のうごめきをつぶさに観察出来るであろうに。今日は四月最後の日である。明日からいよいよ新大の授業が始まる。二、三日姿を見せなかった折内、黒島、中田各ジャン優等生も夕方に帰舎していた。

五月一日 晴

日中は真夏を思わせる様な暑さだった。夕方山本氏帰舎す。夕食には中田さんの全快祝として各自にリンゴが二個づつあたった。久し振りの暖かさに夕食を終えると殆んど舎生は散歩に出かけて舎内はひっそりとしてしまった。

五月二日 火 晴

昨日に引き続いてシャツ一枚で歩いても汗ばむ暑さが今日あたりは桜を一度に目覚めさせ、明日は一斉に咲き揃って、その短い桜の命を惜しみ楽しむためにはせめて春ののどかな一日を桜の下で無礼講で騒ぎ、ざわめき、暴れるのも致し方ない タイムス一日一言 ということに至らしめる。

五月三日 晴時々曇

気温もぐっと落ち着いてしのぎ易い今日は朝六時半のアルバイトから始まって朝食もそこそこに八時半にはもうグランド目指して勇み立つという熱心さ、昨日から練習を怠らなかつた故か東西両軍に分かれた野球試合は中中見事で急に興味満点、最後まで面白いゲームを続けた。九対四点で東軍が勝ったが西軍も負けて悔いなき一線。昼食に敢闘を祝って五目飯の特配あり、久し振りのスポーツに驚いた。腹には少々不足。

五月四日 木 細雨

終日細雨。濡れても風邪をひかない穏やかな春雨。舎生もさすがに散歩をする者はいなかったようだ。夕方可成雨激し。

五月五日 金 曇時々小雨

晴れ間をねらって道路で野球をやったり、バトミントンをしたり終日楽しい子供の日。昼に稲荷ずし、巻きずしで景気づけられ、やれ嬉やと気を良くして晩になったら小母さんが花見に美恵子ちゃんに連れ出されたとかでは晩飯はどうなったんやろ。思うたら昼の

御馳走は実は晩飯だったんだと知って口あんぐり、泡くって飯作り、夕方角田さん三角さんの角二人宵桜見物と丸山へ。 十号相馬

五月六日 土 曇

秋を思わせる様な天気。さくらがその時期を間違っって白い花赤い花を今さかりとつけている様な観がある。春は曙がよいとか云うが春眠の効がききすぎてかそのよさをみた事がない。昔の人は早起きであったらしい。何時ものアルバイトさえ嫌になってくる。

五月七日 日 曇

今日も一日雨模様で折角の花見も駄目でがっかりでした。サンマータイムの第一日目に朝の七時半から起こされてガラス拭きとは！前世で何をしたと言うのか。おお呪われた一日よ。会食の他別段変わりたることなけれど小松さんが入舎せり。今日からタンツエンの猛練習を開始する。早く本物を抱いて見たいですな。内のオッチエンぢやねえ